

県会議員 奥村のり子の
読者ニュース

2015年11月1日 第195号

—奥村のり子生活相談所—
〒640-8212 和歌山市杉ノ馬場1-11
☎&FAX 073-427-7121
Eメール w-jcpken@naxnet.or.jp



↑10月26日の第15回全国障害者スポーツ大会紀の国わかやま大会の閉会式です。読者さんの姿も競技場内の大型スクリーンに映し出されました。

来年4月から訪問診療所が解禁へ

懸念される患者の選別

厚生労働省は、2016年4月をめどに訪問診療専門の診療所を認める方針を固めました。外来患者を診る施設などがなくても診療所を開くことができるようになるというものです。政府は、医療や介護の必要な高齢者が自宅などで生活を続けられる「地域包括システム」を推進しています。訪問診療所の解禁を在宅医療の拡充や入院医療費の抑制につなげようとしています。今は、医療

機関は正当な理由がなければ患者を拒否できないことになっていますが、訪問診療所が解禁されれば医師は外来患者を断ることができ、外来用の設備は必要なくなりません。診療所が患者さんを選別するという懸念もあります。今こそ、いつでも、どこでも、だれもが安心して受けられる医療のあり方を考え、住民が主人公の「地域包括システム」をつくってゆく時だと思えます。一緒に考え下さい。

宮城県議、倍増8議席
びびりする変化が

安保法制(戦争法)の成立後初めての都道府県規模で、宮城県議選(定数59)の投票が10月25日に行われました。日刊「赤旗」27日付によると、日本共産党は9人の候補者を立て過去最高の8人(現職3、新人5)が当選し第2党になり、政界に衝撃を与えました。党議席を倍増し、自民は4減の27議席で過半数を割り、民主が2減の5、公明が増減なしの4、維新1減の1、社民3減の1、無所属6増の13でした。ネットで見るとメディアは「安保関連法や、環太平洋連携協定(TPP)の大筋合意の批判が共産党の議席を押し上げた」とほぼ共通して報道しています。

選挙ですから戦争法だけでなくTPP、原発、消費税増税など安倍政権の暴走全体を批判し暮らしの問題も訴えますが、共産党は「戦争法廃止めざす国民連合政府」構想を前面に訴え、これが広く反響を呼びました。保守層の元首長や地域団体代表などが独自に選対を作り共産党を応援するとか、元自民党员や創価学会員あるいはママ友などいろんな方々が「勝手連」で応援するような状況がどの選挙区でも生まれたというのですからすごい。それほどに安倍政権への怒りが強く、政治を変える「国民連合政府」構想が国民の願いに合致していると言う証明です。来年の参議院選挙が楽しみです。赤旗まつり直前にいい話でした。

どちらも県営紀三井寺陸上競技場で



1933号の訂正
1933号のリレートークで紀ノ川駅乗降客を「2965人」は誤りで、「2953人」と訂正します。

福太郎さんのこと

9月末に風邪をこじらせて急性肺炎になり、20日ちかく入院・療養しました。病中、たくさんの方に迷惑、ご心配をおかけし、またフォローもしていただきました。おわびとともに心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

38度以上の熱が数日つづくところをぬくことを考えてしまうもので、妻になにかほしいものがあるかと聞かれ、天むす(えび天の入ったおにぎり)とこたえました。おそらく、この世の最後には食べたいと思ったのが天むすだったのでしょう。

おなじ病室の福太郎(仮名)さんとお話するようにになりました。身よりのない72歳。重い病気にもかかわらず、いたってのんきな自由人で、病

20日近く入院・療養しました



街頭で気さくに語り合う大門さん

室でたばこを吸ったり、用もないのに呼び出しボタンを押したり、いたずらばかりしていました。女性の看護師さんたちも慣れたもので、けつして怒らない。お見舞いに来る人がいない分、家族のように接してあげていました。福太郎さんをみてみるとあまりに屈託がなく、人間、なにが幸せかわからないとおもいました。

退院する日の朝、福太郎さんにあいさつをしようとカーテンの中をのぞいたら、まだ眠っておられました。もう充分生きた、と言っているような平穏な寝顔でした。

病院を出て、秋色に変わる街路樹をみながら、誰でもいつかは迎えにくる、そのときは、なにが食べたいななどと騒ぐことのない人間になっていたものだとおもいました。

のり子の週刊日誌—主なもの—

- 10月30日 決算委員会
- 31日 市政・県政報告会(西浜)
- 1日 医大記念行事
- 2日 地域訪問、会議
- 3日 ウォーキング大会
- 4日 殉難者慰霊祭
- 5日 無料法律相談、団会議、非核の政府会議 あざみの会報告

党参議院議員
大門みきし

